

## 金色の魔術師

横溝 正史著

昔の探偵小説といえば横溝正史の金田一耕助が有名なのに、私は江戸川乱歩の明智小五郎のほうが「格好いいやん」と思っていたので、あまり気合を入れて読んでいたことがありませんでしたが、何故か古びたこの文庫本の佇まいに惹かれました。

主人公は少年・立花滋。彼は「大迷宮」という事件にも関わって以降、冒険好きの少年達の英雄的存在となっていました。そして冒険好きの村上少年と小杉少年と共に新たな事件に巻き込まれていくのです。彼らの学校のそばに「金色の魔術師」と名乗る怪しげな人物が現れ、生け贄の為の少年・少女をさらっていくのです。彼はそれを解決すべく怪しい洋館に侵入するのですが、目の前で人が溶けて消えてしまったり、首が宙を舞ったりと目を疑うことばかり。頼みの金田一探偵も静養中で助けてもらつことも出来ない状況で何とか事件の解決に動き出します。最終的には本当の主人公である金田一耕助の登場と共にトリックが解明され解決してゆき、生け贄の裏に隠された事実も解き明かされました。それまでもとても不安に読んでいたのが金田一探偵が出てくるだけで「ああ！これで助かった」主人公だけでなく読んでいる私も同じ気持ちになって思ってしまった。もともと少年向けに書かれた冒険小説なお祖父ちゃん達が使いな言葉や表現がとても好きだなあと思いました。

N・F・



角川文庫

掲載の記事・写真・イラスト等の全てのコンテンツ無断複写、転載を禁じます。

(株)ファッションビジネス・御堂筋新聞